

Rotary

イマジン
ロータリー

IMAGINE ROTARY



国際ロータリー 第2550地区

宇都宮東ロータリークラブ会報

<http://www.ri2550uerc.gr.jp/>

会 長 加藤 勝朗

幹 事 塚越 淳史

会報・雑誌委員長 関 元明

例会場 宇都宮市大通り2-4-6 ホテルニューイタヤ

例会日 毎週火曜日(12:30~)

事務局 ホテルニューイタヤ内 宇都宮東ロータリークラブ TEL.028-638-5125 FAX:5128

通算3002号 2023年6月6日(晴れ) 第44回例会 会員数110名

ハイブリッド例会

点 鐘 加藤 勝朗 会長
司 会 副SAA山下会員

◇国歌「君が代」

◇ロータリーソング「四つのテスト」

◇本日のランチ 小付 煮物 チキン南蛮サラダ添え
香の物 汁 御飯 デザート

ビジター紹介

細谷副会長

◇宇都宮保育園 園長 海野 仁昭 様(卓話者)



会長挨拶

加藤 勝朗 会長

皆さん、こんにちは。宇都宮東ロータリークラブは現在、山田有紗さんをグローバル補助金による財団留学生としてスウェーデンに派遣しています。米山奨学生としてアマラ君を受け入れています。宇商マーキュリーインターアクトクラブの提唱クラブでもあります。会員には幼稚園から大学の経営経験者や、中学から大学の教師経験者、教育委員経験者が在籍しています。ほかのロータリークラブと比べ、教育に関しては、深く係わり、関心の高いクラブです。そんな中、保育士経験者・保育園経営者の会員がいません。「三つ子の魂百まで」と言われ、教育の原点である保育園の現状を知ることは非常に意義のある事です。海野様、本日の卓話、よろしくお祈いします。



幹事報告

塚越 淳史 幹事

◇ロータリーレート 6月は1ドル140円。

◇6月13日の例会はクラブ細則改正(案)に対する審議・採決。改正条文(案)のご持参を。

◇今年度会計の締め6月20日(火)。未提出の請求書があれば野添副幹事までご提出を。



委員会報告

◇スマイルボックス委員会 佐々木副委員長
金澤正英会員6月4日大人の休日ゴルフで同伴者に恵まれ、
楽しく、おまけつきでした！！

◇親睦委員会 山崎委員長

<誕生祝い・6月>

会員誕生

飯村 尚志、木下 仁志、黒崎 定美、
中山 靖之、岡田 孝司、末永 義雄、
手塚 正智、山崎 盛美
各会員

夫人誕生

青木 格次、平出 直、門倉 秀夫、
金澤 正英、金田 剛、片嶋 常隆、
川村 壽文、菊地 章浩、鈴木 明、
上野 初雄、薄井 晃
各会員の奥様

・親睦家族ハイキングのご案内

6月18日は春のハイキングで軽井沢星野エ
リア内の「野鳥の森」散策。是非ご参加を。

◇次年度青少年奉仕委員会 永井委員長

2024~25年度の一年交換学生募集。派遣期
間は2024年8月頃~約1年間で対象は県内の
中・高校生の生徒。募集期限が7月20日。推薦
があれば今月末までに幹事か私にご連絡を。



卓 話

「保育の現場から語る現代の子育て」



宇都宮保育園 園長 海野 仁昭 様

皆さん、こんにちは。私は、お寺の住職をしながら保育園の園長をしております。本日はよろしくお願いたします。

- パワーポイントにて説明 -

はじめに、宇都宮保育園についてご説明させていただきます。宇都宮保育園は大正10年10月1日に開園し、一昨年、このイタヤさんで100周年記念祝賀会を開催いたしました。本園は、勤労者家庭の子どもたちを預かる目的で、宇都宮仏教慈善会によって、宇都宮託児所敷島幼稚園として開設されました。石川住職や松元住職のおじいさんが創立に深く関わったとのこと。昭和23年に児童福祉法が制定され名称が社会福祉法人宇都宮保育園となりました。理事・評議員は宇都宮仏教会の旧市街の寺院の住職が就任しています。

・保育園と幼稚園の違い

保育園は、厚生労働省の所管、根拠法令は児童福祉法、施設は児童福祉施設、設置基準は児童福祉施設最低基準による、保育内容は保育所保育指針に従う、幼稚園は、文部科学省の所管、根拠法令は学校教育法、施設は学校教育施設、設置基準は幼稚園設置基準による、幼稚園教育要領に従う等の違いがあります。他に認定こども園等があります。保育園の保育料は0～2歳まで住民税に応じ、3歳からは無償、幼稚園は月額25,700円まで国で保証、こども園も3歳から無償です。

・就業形態の多様化・ライフスタイルの変化

昔は、土曜日半ドン・お盆休み・年始年末・祝日、どの会社もお店もお休みでした。今は就業形態の多様化、年中無休の店や元日から開いている大規模施設等、勤務日・勤務時間の変化があります。また、バブルの後には、専業主婦や扶養内パートから、派遣・臨時・正規雇用へ変わるお母さんたちが増えました。これらの結果、保育のニーズが高まり、待機児童や延長保育時間の利用数が激増しました。夜間保育施設や休日保育施設も増加しました。国立社会保障・人口問題研究所のアンケート調査を見ると、「専業主婦」を望む若年男性が減少し、仕事を辞めないで続けて欲しいという希望者が増加しています。当然、保育園、

幼稚園、こども園等の入所が増えています。

・子どもを取り巻く社会全体の環境の変化

日本の昔の基本的な子育ては、父母、祖父母等の家族内の助け合い、地域における助け合いやふれあい等を通じて、子育てを応援する機能がありました。現在は、核家族化や離婚による「ひとり親世帯」の増加、地域社会における希薄な人間関係、地域において孤立、母親ひとりだけの「孤」育てと、お母さんたちの鬱病の発症や虐待、ネグレクト(育児放棄)につながっています。

・親自身の未熟さの問題

19年前の子育てに関する意識調査の中に「親以外に子どもをしかる大人が少なくなった(57.1%)」「親自身が未成熟であることが多くなった(70.3%)」とあります。この時の子どもが、今ちょうど子育て世代です。また、国際的に比較しても小さな弟や妹の世話をした経験が少ない親が増加しています。

・子どもを大切にす文化

日本はもともと、子どもを大切にする文化があったそうです。幕末、駐日イギリス外交官オールコックは「子どもの楽園」と伝え、アメリカ人のモースは、「子どもの天国、世界中で日本ほど、子どもが親切に取り扱われ、そして子どものために深い注意が払われる国はない」と本に紹介しています。明治以降の近代化から現代まで150年位の間、日本の親子関係、地域社会の中での人間関係、人々の関係、地域の子どもの関係はかなり変わりました。平成16年の厚生労働白書では「社会全体が妊娠や子育てに無関心・冷たい」が4割、「社会から隔絶され、自分が孤立しているように感じる」が約5割です。核家族化、都市化の影響が出ていると思います。

・子どもは誰が育てるか。

親がみるのはもちろんですが、「児童福祉法」で、「全ての国民は…心身ともに健やかに育成されるよう努めなければならない」、国民全員で育成するよう努力してくださいとうたい、「児童憲章」で「児童は、人として尊ばれる」「児童は、社会の一員として重んぜられる」「児童は、よい環境の中で育てられる」と、重ねてうたっています。

・地域全体での子育て

今、子どもが安心して成長していけない環境、子どもを産み育てる社会になっています。このまちで、どういうふう子どもを育てる環境をつくっていくかが、私たち大人に課された大切な課題だと思います。「地域で子どもを産んでも大丈夫、安心してここで生活できるんだよ。」と、我々の世代で発信していかなければなりません。ロータリークラブの皆様にもお考えいただき、今後の活動にお役立ただいただければと考えています。